

天 恍 星

この星は人生にたとえるなら青少年の時代です。人間は、この時代にこそ人生観を形成し、それがそれ以後の人生を支配すると云っても過言ではないでしょう。

この時代に入れば、人間は大なり小なり社会と自分自身との接点を探し求めようとするのです。ときには社会への反抗を試みたり、両親に対して反発心をおこしたり、それでうて何らかを学び取り環境との和合を計ろうするのです。まさに「模索」によって現される迷いの多い星世界なのです。

また青少年時代特有の「夢」「ロマン」「恋」「非常識」などの意味合いがありますが、天恍星にはたんに青少年とのみ考えないで、人間の「巣立ち」の時としています。それは同時に生地生家を離れる星ともされています。

精神的な試練は他のどの星よりも大きく、また孤独を暗示されている星でもあります。

さみしがりやの性情を常に明るさときらびやかさでかくしているのです。

そのことが「暗中の明」をつくりだし、人をたのしませたり、人に明るさをもたらす星でもあるのです。

自意識は相當に強く、小なりといえども大に屈しない気風をもっています。

夢とロマンに支えられ流浪の旅を続ける星世界なのです。

天 恍 星 中 殺	<p>この天恍星が中殺されるということは、青少年期が大運天中殺と同じことになります。</p> <p>生地生家を離れるという意味を持つ天恍星が宿命中殺に遭いますと、天恍星が持っている星の意味合いが変形してきます。それは生涯を通じて住居というものが非常に定まりにくい…という特色に変化します。(もともと流浪の旅を続けるという意味を持つ天恍星世界が、宿命中殺で異常現象が現われ、ますます流浪性が強くなるわけです。具体的には不動産とか住居運とか、衣食住のうち、住の運が非常に掴みにくい…という意味になって来るので。それだけに大変に引っ越しが多い人という形になるのです)</p> <p>さらに、この星が青少年期の星だけに、その青少年期が一種、空欄状態になるということは、たとえば、精神的な苦労に強いというこの星の特色にも異常現象があらわれて変形し、非行化しやすいとか、早く親もとを離れやすいという特色になるのです。(進学や就職といった人生のスタート地点でつまづき、仲間や同級生より一步出遅れた人生を歩みがちです。たとえば、自分が進学したい学校や希望する勤め先があっても不合格になり、やむなく別のところを選んで入ったとしても、まったく自分の意にそわず、自分の意思に反した学校や勤め先なだけに、途中でやめたりするのです。また仕事を転々と変えていくのも中殺された人の特徴です)</p> <p>また、この星の中殺者は、幼少期から異性に強い関心を示すタイプの子供が多く早熟振りを発揮します。</p> <p>この傾向は成人しても変わらず、ややもすると異性にだらしない人とみられがちです。特に十代の頃は非行化しやすく、学校や近所の人達からの評判は必ずしも良くなかったはずです。</p> <p>(人によっては家出を繰り返し、両親や担任の先生達を悩ませることもあります)</p> <p>しかし、成人後はむしろ真面目な仕事振りを見せる様になるので、周囲の人からも認められるでしょう。</p>
-----------	--